

ミズノ テクニクス株式会社
環境創出活動に関する行動計画の達成状況報告（2023 年度）

2024 年 7 月 19 日
岐阜県養老郡養老町高田 307-5
ミズノ テクニクス株式会社
社長 寺下 正記

養老町様、岐阜県西濃振興局様、ミズノ テクニクス株式会社の三者で締結し、2023 年 3 月に 6 回目の更新合意をいただきました、「環境創出協定 ～豊かで快適な環境を創出するための協定書～」におきまして、2023 年度（令和 5 年度）の当社活動内容をご報告いたします。

1. 環境創出協定第 4 条に基づく各管理項目の状況

Table 1 環境創出協定第 4 条に基づく各管理項目の達成状況

注：法令が適用されない項目等に関しては「－」を記入する		法令に基づく 規制基準	維持管理 目標値	将来目標値 (目標年：令和7年)	2023年度（令和5年度）実績
水質汚濁（公共 下水道へ排水）	水素イオン濃度（pH）	5～9未満	6.0～8.0	6.3～7.7未満	8.0
	生物化学的酸素要求量 （BOD）	300 mg/L未満	100 mg/L未満	60 mg/L未満	34 mg/L
	浮遊物質量（SS）	300 mg/L未満	100 mg/L未満	30 mg/L未満	19 mg/L
	n-ヘキサン抽出物質含有量 （動植物油脂類）	30 mg/L未満	20 mg/L未満	15 mg/L未満	1 mg/L
騒音	騒音の大きさ （就業時刻 8:20～17:00）	朝 60 dB以下	－	－	－
		昼 65 dB以下	65 dB以下	62 dB以下	夏季 62.9 dB 冬季 61.0 dB
		夕 60 dB以下	－	－	－
		夜 50 dB以下	－	－	－
産業廃棄物	ゼロエミッション活動 （リサイクル率）	－	98 %以上	99 %以上	99.6 %
	産廃発生量	－	70 t以下	50 t未満	47.3 t

2023 年度の状況は、水質汚濁（公共下水道へ排水）と騒音の 2 項目が将来目標値に対して未達成となりました。

水質汚濁の状況については以下となります。

水素イオン濃度（pH）が 8.0 となり、維持管理目標は達成しておりますが、将来目標値 6.3～7.7 未

満に対して大幅に超過する結果となりました。原因については現在、調査検討を進めており、今後適切な対応を講じて参ります。水質汚濁のその他の項目については将来目標値を満たしており、当初目標を達成できました。

騒音の状況については以下となります。

夏季 62.9dB、冬季 61.0dB となり、こちらも維持管理目標は達成しておりますが、将来目標値に対しては最大で 0.9dB 超過する結果となりました。今後は年間を通して将来目標値を達成するべく対策を講じて参ります。

産業廃棄物の状況については以下となります。

ゼロエミッション活動（リサイクル率）、産廃発生量ともに将来目標値を満たしており、当初目標を達成できました。

今後も更なる歩留まりの改善や包装資材、及びカーボン素材のリサイクルについての研究を進め産業廃棄物の削減を行っていきます。

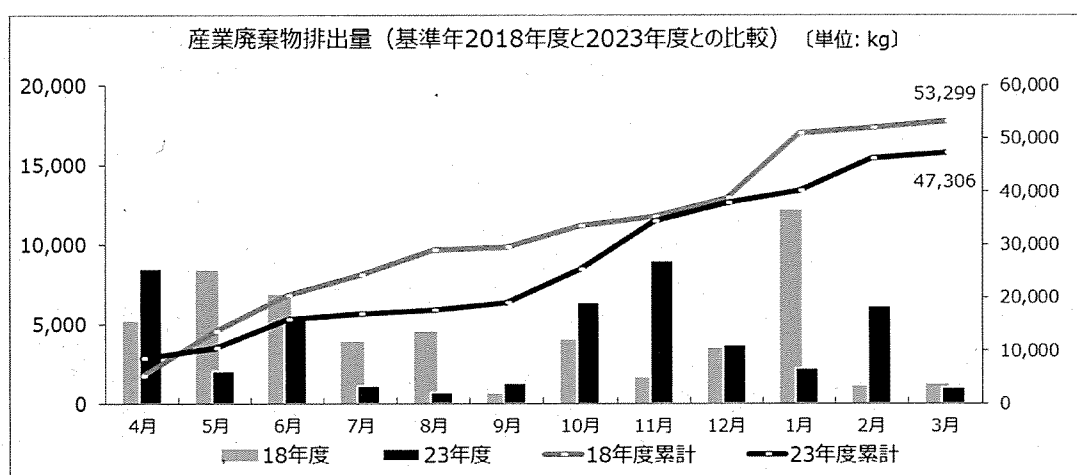


Fig.1 産業廃棄物排出量（基準年 2018 年度と 2023 年度との比較）

2. 温室効果ガス排出量削減について

Table 2 2018 年度以降の温室効果ガス排出量の推移（Scope1+2）

〔t-CO ₂ e〕	2018年度 (基準年)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
温室効果ガス排出量	1,295	1,296	1,208	1,306	1,157	847
2018年度比 増減量	—	1	▲87	11	▲138	▲448
2018年度比 削減率(%)	—	▲0.1	6.7	▲0.8	10.7	34.6

2023 年度の温室効果ガス排出量（Scope1+2）は 847 t-CO₂e で、2022 年度比で▲310 t-CO₂e（26.8 %）の削減、また基準年である 2018 年度比で▲448 t-CO₂e（34.6 %）の削減ができました。

これは太陽光発電システムの本格稼働や、CO₂ フリー電気（中部電力ミライズ様と購入契約締結）等による再生可能エネルギーの利用拡大が、大きな削減効果をもたらしました。

当社は再生可能エネルギーの利用拡大を今後も推進し、温室効果ガスの更なる排出削減に努めて参ります。

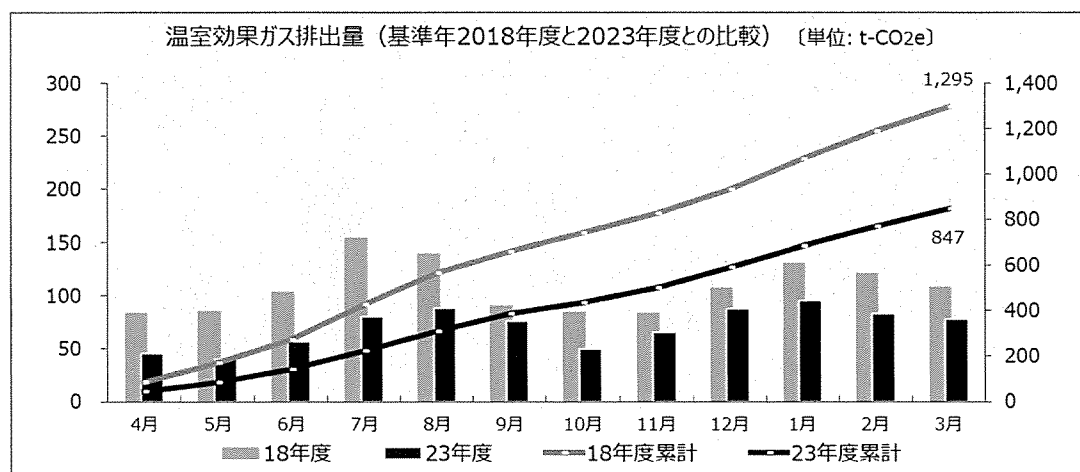
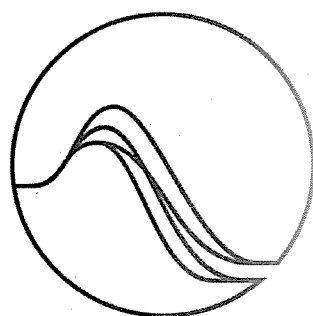


Fig.2 温室効果ガス排出量（基準年 2018 年と 2023 年度との比較）

科学的根拠に基づいた目標設定

ミズノグループの温室効果ガス排出目標が SBTi 認定を取得



SCIENCE
BASED
TARGETS

DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

ミズノグループは、地球環境保全のために設定した温室効果ガス削減目標について、「SBTi (Science Based Targets initiative) ※1」の認定を取得しました。

※1 CDP、国連グローバル・コンパクト、WRI（世界資源研究所）、WWF（世界自然保護基金）の4機関が2015年に共同で設立した国際的イニシアチブ

ミズノグループは1991年から環境保全活動を展開しており、このたび温室効果ガスの Scope1（自社直接排出）と Scope2（自社間接排出）について、2030年に2018年（基準年）比で50.4%削減、Scope3（他社間接排出）のカテゴリー1（購入した製品・サービス）およびカテゴリー12（販売した製品の廃棄）について、2018年（基準年）比で58.1%削減（付加価値10億円あたり）の目標が科学的根拠に基づいた目標であるとの認定を受けました。

今後、この目標の実現に向けて、省エネルギーや再生エネルギーの活用、製品製造工程の革新、廃棄物削減、リサイクルの推進などの活動を加速し、さらに2050年にはネットゼロの実現を目指します。そして、いつでも、誰もがスポーツを楽しめる地球環境を次世代に引き継ぐことを目指します。

SBTi に認定された温室効果ガス削減 目標値
 Scope1, Scope2 : 2030 年に 2018 年比で 50.4 %削減
 Scope3 : 2030 年に 2018 年比で 58.1 %削減 (付加価値 10 億円あたり)



Fig.3 ミズノグループの環境目標 (SBTi 認定取得)

3. エネルギー使用量の削減について

長期環境目標を達成するため、2023 年 1 月、同工場で最大の棟であるゴルフ製造棟に太陽光パネルを設置しました。年間約 40 万 kW を発電し、ゴルフクラブ、野球バット、コンボジット事業等製品の製造工程の電力として利用しています。また、自然災害発生時には非常用電源設備としても機能し、近隣の皆様が一時的にご利用することも可能であり、地域社会への貢献が期待されます。

製造棟および管理棟、製品倉庫の照明につきましては、LED 化をほぼ完了しました。

また、社用車はガソリン車からハイブリッド車の低燃費車に順次切り替えているほか、一部に電気自動車を導入して環境への効果を確認しています。社用車には「テレマティクス※」を使用し、車両の運行状況を見える化することで、安全運転への意識付けだけでなく、燃費の改善や温室効果ガス排出量の削減などに役立っています。

※テレマティクス：車両の位置情報・走行距離・速度が管理できるシステム



Fig.4 ゴルフ製造棟（左）とゴルフ製造棟に設置した太陽光パネル

4. コミュニケーション

4-1. 工場周辺の美化清掃活動

毎月第1水曜日に30分間ですが、地域の環境整備及び従業員への環境意識の向上を目的に、工場周辺の美化清掃活動を継続的に実施しています。

これは地域環境の美化に役立つとともに、清掃活動を通じて地域の一員であることを再認識し、近隣の皆様との相互コミュニケーションの場にもなっています。

2023年度は金属ごみやプラスチックごみ、腐朽木等を回収しました。



Fig.5 工場周辺の美化清掃活動の様子

4-2. 工場見学の受入れ

2023年度は「創立80周年記念イベント」の開催もあり、近隣にお住まいの方々や関係先様など、総計11件315名様の方にお越しいただきました。ゴルフクラブや野球バットの製造工程の見学や当社の歴史など、参加者の皆様からは大変ご好評をいただきました。

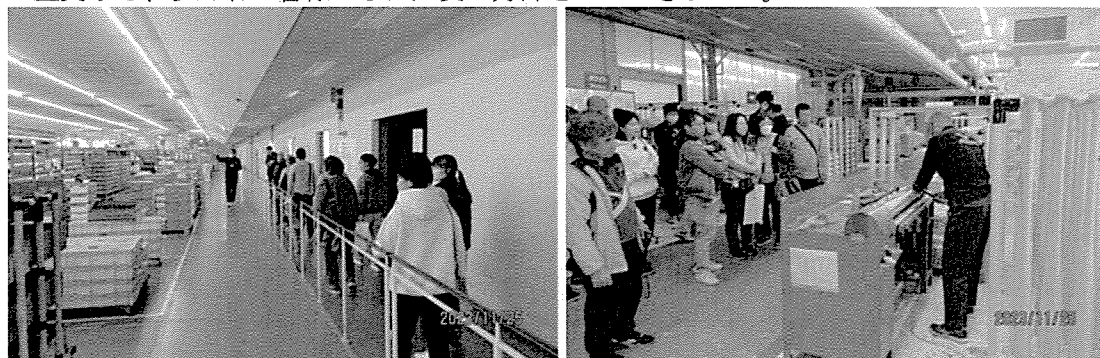


Fig.6 工場見学の様子

4-3. メディア取材

国内外のイベントやプロスポーツ界でご活躍された選手が愛用する、専用モデルバット製造工程のメディア取材の受入れを実施しました。



Fig.7 名和クラフトマンによる選手専用モデルバット製造の様子

